

十五代酒井田柿右衛門のギャラリートークからみる制作意識の変化に関する分析 Research into the metamorphosis of the artistic style of the 15th generation potter Sakaida Kakiemon by the analysis of his gallery talks.

濱川 和洋

九州産業大学

Hamakawa Kazuhiro

Kyushu Sangyo University

Key words: 15th generation potter Sakaida Kakiemon, Nigoshide, Kakiemon style, Text Mining, KH coder

要旨

本研究では、2017年から2019年に行われたギャラリートーク13回分を対象にテキストマイニングを行った。階層的クラスタ分析では、これまでのギャラリートークで語られてきた話題に8つのタイトルをつけ分類および整理を行った。共起ネットワーク分析では、各年に行われたギャラリートークについて、語彙同士の共起関係と媒介中心性を視覚化した。その結果、2017年から2019年にかけて、自らの作風の方向性を定めるために「様々な形状の濁手素地にシンプルに文様を描く」というものから、「17世紀の柿右衛門様式」を強く意識した作風へと変化していることがわかった。

Summary

In this study, text mining was performed for thirteen gallery talks held between 2017 and 2019. In the hierarchical cluster analysis, eight titles were given to the topics talked about, and they were classified and organized. Through examination of the co-occurrence network analysis, and as a result of visualization of the co-occurrence relationship between vocabularies and the mediation centrality of the gallery talks held each year, it was found that Sakaida's style had changed from originally "drawing a simple pattern on variously shaped porcelain ware" to a style that is strongly conscious of the "17th century Kakiemon style".

1. はじめに

17世紀初頭、肥前磁器の生産体制は明治頃まで佐賀藩による厳しい統制と保護のもと、産地の徹底した分業制により技術の漏洩を防いできたが、柿右衛門窯は当初から窯元内での分業制により、制作から赤絵付けを一貫して行うことが例外的に認められていた唯一の窯元である。明治維新で幕藩体制が崩壊し、磁器の生産販売が自由化したことで産地全体としての分業制は無くなったが、柿右衛門窯は現代においても分業制を継承しており、伝統的生産手法を現代に伝える佐賀県有田町を代表する存在として広く知られている。その当主である十五代酒井田柿右衛門氏（以降、十五代）は、陶芸作家とされるものの職人集団を率いるプロデューサー的な役割を担っており、明治以降に現れた単独で作品を一から作るいわゆる「個人陶芸作家」とはその形態がやや異なる。現代における最高品質の原材料を使い、伝統的な技術を絶やさぬように職人を使って窯元の高い技術を維持しつつ、十五代の濁手として新しい表現を追求するその姿は、作家であり、経営者であり、教育者であり、世間に広く影響を与える存在である。つまり、十五代を追跡していくことで明らかになる人間像や人生観というものは、これからの伝統工芸のあり方の一つを示すものとも考えられ、作家や職人を志す後世の指針となり得る公益性の高いものである。したがって本研究では、十五代の間像や人生観に迫るための第一歩として、個展の追跡

表1 これまで調査した個展とギャラリートークの一覧

調査日時	展示名	場所	ギャラリートーク
2017.3.25	【広島】「襲名記念」十五代酒井田柿右衛門展	福屋八丁堀本店 7階 美術画廊	3.25_14時～14時半
2017.9.30	【宮城】「襲名記念」十五代酒井田柿右衛門展	藤崎 本館7階 催事場	9.30_14時～14時半 (対談形式)
2017.10.28	【静岡】「襲名記念」十五代酒井田柿右衛門展	遠鉄百貨店 本館8階 催会場	10.28_14時～14時40分
2017.10.29	【静岡】「襲名記念」十五代酒井田柿右衛門展	遠鉄百貨店 本館8階 催会場	10.29_14時～14時40分
2018.3.24	【大阪】十五代酒井田柿右衛門展	近鉄百貨店 タワー館11階美術画廊	3.24_14時～14時半 (対談形式)
2018.4.4	【福岡】十五代酒井田柿右衛門展	福岡大丸天神店 本館6階 アートギャラリー	4.4_14時～14時半
2018.4.8	【福岡】十五代酒井田柿右衛門展	福岡大丸天神店 本館6階 アートギャラリー	4.8_14時～14時半
2018.5.12	【東京】高島屋美術部創設110年記念 <襲名記念> 十五代酒井田 柿右衛門展	日本橋タカシマヤ 6階美術画廊	5.12_14時～15時
2018.9.23	【兵庫】十五代酒井田柿右衛門展	そごう神戸店 本館9階	9.23_14時～15時 (対談形式)
2018.10.6	【茨城】創業110周年記念 十五代酒井田 柿右衛門展	京成百貨店7階 催事場	10.6_14時～15時
2018.11.17	【京都】高島屋京都店美術部創設110年記念 十五代酒井田 柿右衛門展	高島屋京都店 6階美術画廊	11.17_15時～16時 (対談形式)
2019.2.10	【山梨】十五代酒井田 柿右衛門展	岡島百貨店 5階岡島ギャラリー	無し
2019.3.16	【岡山】十五代酒井田柿右衛門展	高島屋岡山店 8階特設会	3.16_13時～13時40分
2019.5.25	【千葉】十五代酒井田柿右衛門展	そごう千葉店 7階 美術画廊	無し
2019.6.8	【福岡】第54回西武伝統工芸展	9階三越ギャラリー	無し
2019.9.28	【岡山】十五代酒井田柿右衛門展	天満屋岡山店 5階 美術画廊	無し
2019.10.27	【大分】十五代酒井田柿右衛門展	大分トキハ本店 7階画廊	無し
2019.11.9	【熊谷】十五代酒井田柿右衛門展	八木橋 8階 カトレアホール	無し
2019.12.7	【長崎】十五代酒井田柿右衛門展	浜屋百貨店 8階 美術ギャラリー	12.7_14時～14時半
2020.1.26-27	【福井】十五代酒井田柿右衛門展	西武福井本店 6階 催事場	無し
2020.3.7	【姫路】十五代酒井田柿右衛門展	山陽百貨店本館 6階 催し会場	3.7_14時～14時40分
2020.6.6	【宇都宮】十五代酒井田柿右衛門展	東武宇都宮百貨店 5階 イベントプラザ	無し
2020.7.18	【東京】十五代酒井田柿右衛門展	日本橋三越本店 本館6階 美術特選画廊	無し
2020.9.19	【松江】十五代酒井田柿右衛門展	一畑百貨店松江店 5階美術サロン	無し
2020.10.17	【横浜】十五代酒井田柿右衛門展	そごう横浜店 6階 美術画廊	無し
2020.11.7	【熊本】十五代酒井田柿右衛門展	鶴屋百貨店本館8階美術	無し
2021.2.20	【福山】十五代酒井田柿右衛門展	福山天満屋 8階催場	無し

調査を開始した2017年から2019年までの3年間に
行われたギャラリートークを対象にテキストマイ
ニングを行う。分析期間を3年間としたのは、「5
年おきに作風を見直す」という十四代の頃からの方
針を十五代も踏襲しており、2019年が十五代の襲
名5年目に当たるためである。本稿では襲名5年
目を一区切りとして、ギャラリートークにおける話
題を抽出し、3年間で語られてきた内容を視覚化す
ることで、十五代の意識の変遷について考察したい。

2. ギャラリートークについて

ギャラリートークは百貨店からの要望により行わ
れるため不定期に開催されている。ギャラリートー
クの形態は十五代が単独で行うものと、司会者と対
談形式で行われるものの2パターンあり、個展会場
に椅子を一時的に並べた仮設会場にて30分から
60分で行われる(図1)。司会者による十五代のプ
ロフィール紹介の後、「初代柿右衛門」、「濁手復興」、
「原材料」、「作品解説」という内容で話が進められ
ることが多く、ギャラリートーク終盤には質疑応答

表2 分析対象としたギャラリートーク

調査日時	展示名	場所	時間
2017	3.25 【広島】「襲名記念」十五代酒井田柿右衛門展	福屋八丁堀本店	約30分
	9.30 【宮城】「襲名記念」十五代酒井田柿右衛門展	藤崎	約30分 (対談形式)
	10.28 【静岡】「襲名記念」十五代酒井田柿右衛門展	遠鉄百貨店	約40分
	10.29 【静岡】「襲名記念」十五代酒井田柿右衛門展	遠鉄百貨店	約40分
2018	3.24 【大阪】十五代酒井田柿右衛門展	近鉄百貨店	約30分 (対談形式)
	4.4 【福岡】十五代酒井田柿右衛門展	福岡大丸天神店	約30分
	4.8 【福岡】十五代酒井田柿右衛門展	福岡大丸天神店	約30分
	5.12 【東京】高島屋美術部創設110年記念 <襲名記念> 十五代酒井田 柿右衛門展	日本橋タカシマヤ	約60分
	9.23 【兵庫】十五代酒井田柿右衛門展	そごう神戸店	約60分 (対談形式)
	10.6 【茨城】創業110周年記念 十五代酒井田 柿右衛門展	京成百貨店	約60分
	11.17 【京都】高島屋京都店美術部創設110年記念 十五代酒井田 柿右衛門展	高島屋京都店	約60分 (対談形式)
2019	3.16 【岡山】十五代酒井田柿右衛門展	高島屋岡山店	約40分
	12.7 【長崎】十五代酒井田柿右衛門展	浜屋百貨店	約30分



図1 ギャラリートークの様子(2020.3.7 姫路山陽百貨店)

表3 抽出された頻出語リスト（上位30語）

順位	2017年（4回分）		2018年（7回分）		2019年（2回分）		合計（13回分）	
	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
1	作る	114	思う	213	作る	66	思う	378
2	思う	111	作る	171	思う	54	作る	351
3	描く	92	描く	161	赤	39	描く	290
4	最初	65	赤	150	描く	37	赤	242
5	作品	65	使う	130	昔	34	使う	189
6	十四代	53	十四代	99	色	29	色	169
7	赤	53	色	96	使う	27	十四代	168
8	形	44	今	91	仕事	25	最初	158
9	自分	44	焼き物	82	焼き物	25	今	148
10	色	44	最初	79	自分	24	焼き物	148
11	仕事	42	材料	79	今	23	自分	144
12	焼き物	41	自分	76	柿右衛門様式	22	仕事	137
13	色んな	41	仕事	70	形	22	作品	130
14	十三代	37	昔	69	濁手	21	昔	128
15	スタイル	35	色んな	57	デザイン	16	形	119
16	今	34	一番	55	十四代	16	色んな	113
17	名前	33	絵	54	色んな	15	材料	110
18	使う	32	形	53	最初	14	濁手	102
19	無い	32	作品	52	材料	14	絵	96
20	濁手	31	人	52	十三代	14	柿右衛門様式	93
21	違う	30	デザイン	51	絵	13	十三代	86
22	柿右衛門様式	30	入れる	51	柿右衛門	13	柿右衛門	83
23	絵	29	濁手	50	作品	13	人	82
24	団栗	28	葡萄	46	残る	13	デザイン	80
25	モチーフ	25	柿右衛門	45	襲名	13	入れる	80
26	柿右衛門	25	モチーフ	43	人	13	団栗	79
27	昔	25	行く	42	図案	13	名前	76
28	技術	24	柿右衛門様式	41	団栗	13	モチーフ	74
29	個展	23	職人	39	長崎	13	無い	74
30	職人	22	無い	39	沢山	12	一番	73

の時間が設けられている。このようなギャラリートークを2017年から2019年までの3年間で13回分をボイスレコーダーに録音し、会場の様子や気づきを筆記により記録した（表1）。

3. テキストマイニングによる分析方法

分析するギャラリートークは表2に示す通り、2017年3月25日の福屋八丁堀本店から2019年12月7日の浜屋百貨店までの13回分を対象とした。

3.1. テキストのクリーニング作業

ギャラリートークの録音データをテキストに書き起こした後、素起こしたテキストの「まゝ」や「あのー」、「ええと」など意味を持たない繋ぎ言葉を削除し、ケバ取りを行った。また、言い間違いや口癖による同じ言葉の繰り返しや、一つの語彙に対していくつかの呼び方があるものの表現の揺れを修正した。例えば、「十四代酒井田柿右衛門」を示す言葉として「十四代」、「先代」、「父」、「先代の十四代」というものがあるが「十四代」という表現に統一した。さらに専門用語や「柿／右衛門／様式」というように分断されてしまう語彙については、強制抽出語としてテキストファイルにまとめ登録を行った。このような作業を繰り返し行い、分析に適したデータに整えた。なお、対談形式で行われたギャラリートークについては、司会者の発言部分を単純にカットして分析を行うことにした。

3.2. テキストの分析手順

分析にはKH Coder 3¹⁾を使用した。分析の手順は、①テキストの形態素解析²⁾により語彙の出現頻度について解析を行う。②階層的クラスター分析

により3年間で語られた話題を抽出しタイトルを付けて分類する。③共起ネットワーク分析によって視覚化される語彙の関係と、中心性の高い語彙から各年の特徴を把握するという流れで行った。

4. 頻出語の抽出

ギャラリートークにおける語彙の出現回数を示したものが表3である。抽出語の出現頻度で最も多かったのは1位「思う（378）」であり、ついで2位「作る（351）」、3位「描く（290）」、4位「赤（242）」、5位「使う（189）」、6位「色（169）」、7位「十四代（168）」、8位「最初」、9位「今」、10位「焼き物」と続いている。

まず1位「思う」についてKWICコンコーダンスを使い、コロケーション統計にて「思う」に関する抽出語も合わせて確認してみると（図2）、『面白いのではないかと思います』、『いいかなと思って描きました』、『自分の思ったものをどんどん作って』、『どうしようかなんて思いながら』という使用例が確認できた。顧客に向けて行われるギャラリー

り、「思う」と同様に「今」についても今後抽出方法を検討する必要があると考えられる。

10位の「焼き物」については、使用例をみると『柿右衛門の焼き物』、『有田の焼き物』、『白い焼き物』、『ウチの焼き物』という使われ方をしており、「どんな焼き物」なのか固有名詞等に置き換える必要があると考えられる。例えば、文脈からその意味を十分に把握した上で『白い焼き物』を『白磁』に言い換えるなど今後工夫が必要である。

なお、11位～30位までは、11位「自分(144)」、12位「仕事(137)」、13位「作品(130)」、14位「昔(128)」、15位「形(119)」、16位「色んな(113)」、17位「材料(110)」、18位「濁手(102)」、19位「絵(96)」、20位「柿右衛門様式(93)」、21位「十三代(86)」、22位「柿右衛門(83)」、23位「人(82)」、24位「デザイン(80)」、25位「入れる(80)」、26位「団栗(79)」、27位「名前(76)」、28位「モチーフ(74)」、29位「無い(74)」、30位「一番(74)」となっており、全2334件の語彙が抽出された。

5. 階層的クラスター分析

ここでは、3年間のギャラリートーク全てを対象に階層的クラスター分析を行った。類似性の高い語彙どうしをグループ化し、各クラスターにタイトルを付けることで分類を行った。結合方法はWard法とし、最小出現数は30としてデンドログラム(樹形図)を作成した(図3)。

分析結果をみると、8つのクラスターに分割されている。上から順に内容をみてみるとCluster 1は11語の結合であり、『枝が特徴的な蠟梅(唐梅)の花に赤を使うと違う花に見えるので黄色を使っ

た』という「唐梅文」のエピソードを連想させる語彙が関連づけられていることがわかる。したがってCluster 1のタイトルは「赤を使わない作品」とした。

Cluster 2は18語の結合であり、『赤ワインの葡萄を取材しデザイン化した』ということ、『吉祥寺の藤を取材しデザイン化した』という、新たなモチーフに関するエピソードを連想させる語彙が関連づけられていることから、Cluster 2は「新たな文様」とした。

Cluster 3は4語の結合であり、『柿右衛門窯の工房では職人が分業で仕事をしている』ということが容易に連想できるため「分業制」とした。

Cluster 4は8語の結合であり、『十四代が亡くなり急遽襲名することになった』ということ、『自分の初個展まで半年足らずで何とか作品を制作した』ということ、『最初のモチーフに思い浮かんだのが団栗だった』という、襲名時のエピソードを連想させる語彙が関連づけられていることから、Cluster 4は「襲名した頃」とした。

Cluster 5は6語の結合であり、『十二代と十三代が濁手を復興させ作家活動を始めた』ということが容易に連想できるため「濁手復興と作家活動の始まり」とした。

Cluster 6は23語の結合であり最大のクラスターとなっている。内容は『いろんな形の白磁にシンプルに絵付けをしている』という作風に関すること、『ベンガラを10年水にさらし細かい粒子にする』という原材料への拘りなど、現在のことを連想させる語彙が関連づけられていることから、Cluster 6は「現在の制作方法」とした。

Cluster 7は6語の結合であり、『初代柿右衛門が

苦勞して色絵磁器を開発した』というエピソードを連想させる語彙が関連づけられていることから「日本における色絵時期の始まり」とした。

Cluster 8は7語の結合であり、『柿右衛門様式磁器が誕生し輸出が始まった』というエピソードを連想させる語彙が関連づけられていることから「柿右衛門様式の成立と海外輸出」とした。

したがって2017年から2019年までの3年間で語られてきた内容は「赤を使わない作品」、「新たな文様」、「分業制」、「襲名した頃」、「濁手復興と作家活動の始まり」、「現在の制作方法」、「日本における色絵磁器の始まり」、「柿右衛門様式磁器の成立と海外輸出」の8つに集約し整理することができた。

6. 共起ネットワーク分析

共起ネットワークは、出現頻度が高い語彙のうち出現パターンが類似しており、共起関係が強い語彙を線で結びネットワーク図で表したものである。出現頻度が多い語彙ほど大きな円で表され、強い共起関係にある語彙ほど太い線で表示される。

ここでは階層的クラスタ分析によるタイトルと内容を踏まえた上で、3年間の各年に行われたギャラリートークについて、それぞれ媒介中心性による共起ネットワーク分析を行い、語彙同士の関連性を要約提示するとともに、共起関係から各年で話された内容の把握を行った。なお、媒介中心性とは、共起ネットワーク上で各抽出語を最短距離で結んだ場合に、経路が語彙を通過する回数の多さを示すものであり、全体への影響が大きい語彙を把握するのに適している。また、KH Coderで分析を行う際には「最大/最小出現数による語の取捨選択」に任意の数値

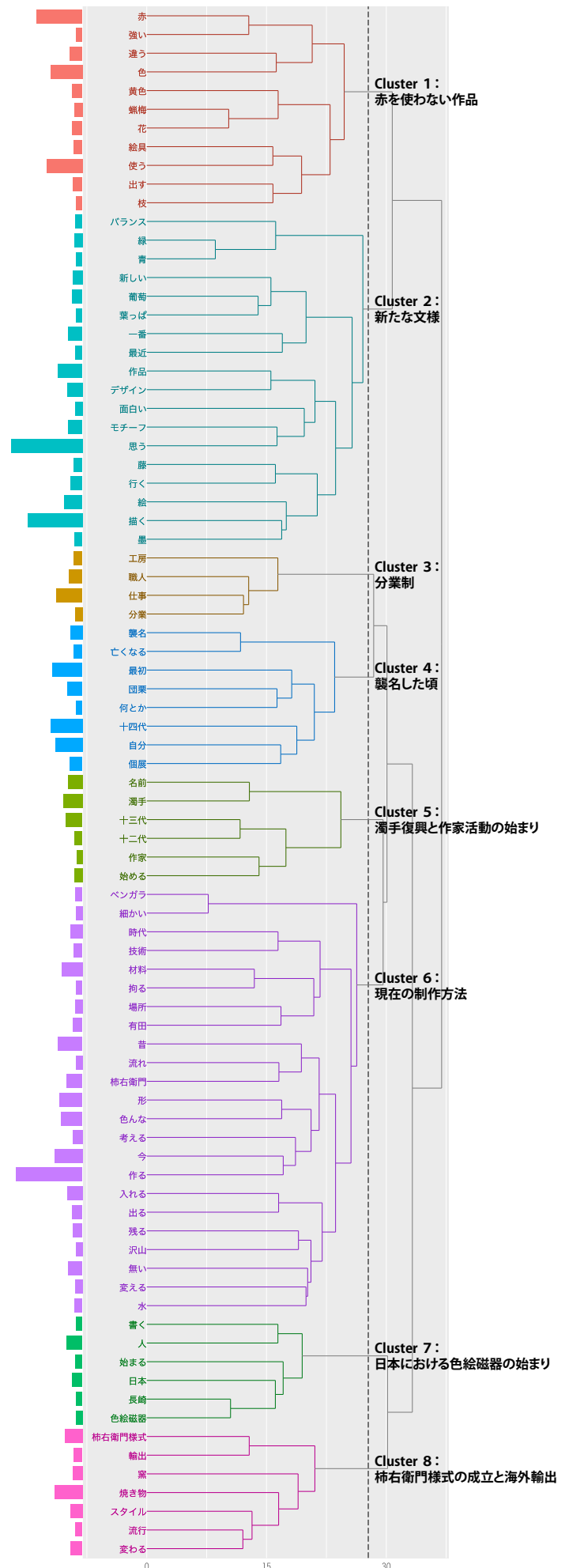


図3 3年間の階層的クラスタ (Ward法 最小出現数30)

たがって2018年は、柿右衛門様式を意識し、これまでの作風を見直すことに関心が高まっていると考えられ、現状を見つめながら自身の作風について模索する姿が見られる。

2019年の分析は、最小出現数7、共起関係の選択にはEuclid係数0.2以上として分析を行った。図6に媒介中心性による共起ネットワーク分析の結果を示す。2018年の分析結果は、「五代」、「柿右衛門様式」、「拘る」、「梅」、「幹」、「黄色」といった語彙が媒介中心性となっており、描画されている線による共起関係に着目すると「五代、柿右衛門様式、拘る」、「梅、幹」、「黄色」というグループに分けられた。この語彙の組み合わせから『五代の頃の柿右衛門様式に拘っている』こと、『梅の木を幹まで描くようになった』こと、『赤、黄色、青、緑、紫が柿右衛門様式の基本色である』という内容が連想される。2019年は柿右衛門様式への関心がさらに高まっており、柿右衛門様式を構成する要素について触れることが多くなっていることがわかる。具体的には、「五代の柿右衛門様式」とは17世紀の典型的な柿右衛門様式磁器のことを示しており、柿右衛門様式磁器の図案は基本的に風景画であるため「梅の木を幹まで描く」ようになったと解釈できる。また、十四代はどの作品にも柿右衛門様式の基本5色を使っていたが、モチーフの自然さを好む十五代は、モチーフによって5色全てを使用しない作品もこれまで数多く発表してきた。2018年からその傾向が確認できるが、柿右衛門様式の基本5色に関係した語彙が出現しているのは17世紀の柿右衛門様式磁器を意識しているからであり、この3年間で柿右衛門様式を強く意識した作風に変化してきたというこ

とがわかる。

一方で2017年の作風に関しては、共起ネットワークの抽出語「作風」からKWICコンコーダンスを使い、原文を辿ると「色んな形のものにシンプルに絵付けしていくというスタイル」というコメントを抽出することができた。したがって、2017年から2019年までの作風に関する発言を時系列に並べると以下のようなになる。

Key word：シンプル（2017.3.25 福屋八丁堀本店）

私の場合は、継ぐ前の期間がだいぶ短いものですから、まだちょっと自分の作風を、これが私の作風ですと言うようなスタイルがまだ無くて、作りながら、色んなものを作りながら考える。色んな形を作っていますけれどもモチーフもまだ少ないので、種類が少ないので、色んな形のものにシンプルに絵付けしていくというスタイルで最初はいこうということで、襲名披露というものが終わるまではこういうスタイルでやらせていただこうと思ってやっています。

Key word：シンプル（2017.10.28 遠鉄百貨店）

最近は、一番最初はこのシンプルな構図というか、いろんな形のものでできてきて、自分の作風というものがまだ備わっていませんでしたので、いろんな形が出来てくる中に、自分が作った色んなモチーフで構成していくというスタイルで仕事をしています、

Key word：シンプル（2017.10.29 遠鉄百貨店）

最初はシンプルな形の色んな形を新しく作ったもんですから、沢山白い色んな形ができたもんですか

らそれに合わせて、モチーフをシンプルな形でつけるということで、今の焼き物の展示を見ていただくとわかると思うんですけども、大体そういうかたちで付けてきております。

Key word：バランス（2018.4.8 福岡大丸天神店）

桜なんかは、何年か前にこの形になりましたけれども、最初は赤の花にしてみたりとか、中の輪郭の線描きを黒くしてみたりとか、色々こう考えながらやっていたんですけども、最初の頃は葉っぱのサイズが大きかったりなんかして、少しか、青と緑のバランスというか、青と緑の葉っぱを小さくすることで、柿右衛門様式のバランスに近づけていくことをしまして、今これが落ち着いているバランスなんですけれども、だいぶ最初からは変わってきているものです。同じモチーフを描き続けているんですけど、個展ごとにこう新しく描き直しながら、色々やっています。桜だけでなく他のものも、最初の頃からすると、だいぶバランスというか、緑青と赤の比率というのにちょっと気を使いながら、少しずつデザインを修正しながらやっているという感じですよ。

Key word：赤の発色（2018.5.12 日本橋タカシマヤ）

一番最初に描いた時は、かなりこう、今もちょっと癖が強いかもしれませんが、もっと、何て言うんですかね、柿右衛門様式というよりは自分の作品みたいな感じになってまして、青と緑がかなり多くて、線描き、輪郭線なんかの線描きとかを黒い線で描いていましたんで、赤の発色が少し黒ずんで発色してまして、焼き付けた時に絵具の色が移っ

ていくということで、赤が少し黒くなって、丁度団栗に近づけて、近づいたという感じの色になっていました。あの当時はすごく雰囲気が本物に近づいたということで納得して、これはいいなという風にやってはいたんですけども、やっぱりウチの場合は、赤に拘っていますんで、やっていく内にある時点で、少し調合した赤の色を尊重したいという風に変ってきてまして、今は線描きを赤にしまして、赤の上に赤をかけて色が濁らないようにしております。

Key word：シンプル（2018.9.23 そごう神戸店）

私の今の作風はもうシンプルに色んな形にモチーフだけ描いていくということで今発表しているので、

Key word：シンプル（2018.10.6 京成百貨店）

5年になりますので新しい作風も入れていかなければいけないなと思いながらやっているんですけども、今のところは色んな形のものにシンプルに絵付けをモチーフのみで、一つのモチーフをシンプルに絵付けするという、そういうスタイルで仕事をしております。次にどういう風にしていくかというのは、まだ色々考えているんですけども、そろそろ変えるタイミングになってきていますので、ちょっと焦っているような感じですけども。

Key word：シンプル（2018.10.6 京成百貨店）

私の場合はまだ襲名したばかりなものですから、今はあまりバリエーションを増やさないということにしております、シンプルな形のものに、色んな

形のものでできてきますので、それにシンプルにモチーフをうまく構成して絵付けをするということに拘ってこの5年間は仕事をさせて頂いております。色々その時その時で、自分の一番良い形というものも変わってくるのですけれども、その時に良いと思うものを入れる絵付けというか、そういうことで今仕事をしてくれています。

Key word：青と赤の発色（2018.10.6 京成百貨店）

赤いものじゃないので、最初は団栗を赤く描いても大丈夫かなというのはあったんですけども、やってみたら意外と自分の中ではしっくりきたもんですから作りました。色味なんかも、最初の方は葉っぱのところが大きかったりしたもんですから、赤が目立たないっていう感じで言われたことがあったんですけども、最近は少しく雰囲気を変えてきていまして、青のところはコバルトの色ですけども、これの調合を十四代と少し変えたりとか、もう少しく渋い青だったんですけども、私は17世紀の柿右衛門様式の色ということに拘りまして、昔の色に戻したという感じです。今団栗は赤いですが、襲名してすぐの時は黒い線で描いていまして、その黒い線がその赤に影響して少し茶色っぽくなったんです。それが団栗っぽいかんと思ってやっていたんですけども、最近はあんまりこう焼く時に色が混ざるといのがどうなんだろうという風に思いました。ちょっと華やかさも今はあった方が良くかという考え方に変わったもんですから、最近は、あまり色は濁らないようなやり方というか、赤い線に戻しまして、黒い線は使わないようにということで赤のところが変わっています。

Key word：柿右衛門様式（2018.11.17 高島屋京都店）

最近この藤の絵なんかは、藤のモチーフなんかは意外と気に入っています。ちょっと今までに無かったというか、柿右衛門様式の色バランスに近づいたような気がして、少しく華やかに見えるんじゃないかなと思っています。一つ一つのパーツが小さいので、柔らかい感じが出ていまして、苺なんかもそうなんですけれども、なんかあの昔ながらの柿右衛門様式の色バランスに近いのかなと思って、(中略)このパーツパーツが大きいとやっぱりその色の印象が強くなりまして、団栗とか、そういう葉っぱが大きいものはやっぱり緑の色が強くなるんです。(中略)柿右衛門様式は基本的に昔のものは風景画なんです。色んな色はその風景のパーツパーツの中に、小さい面積で散りばめられているというそれが昔の色のパーツなので、そういうのが自分の作品にも再現できているのが藤の絵なんかかそうなのかなという風に思いました。もう一段階二段階こういうので進んでいった作品が作れないかなというのが今頭の中に少しあることです。

Key word：柿右衛門様式（2018.11.17 高島屋京都店）

ウチは柿右衛門様式という17世紀に輸出の最盛期を迎えた頃に出来上がった形というものがお手本になっているという感じなんですけれども、昔のものをそのまま再現してもあまり意味がないなということも思っています。今の時代に求められているもので昔の柿右衛門様式に準じるものが作れると、色んな人から受け入れてもらえるんじゃないかということも考えておりますので、そういうものを作るのが目標ではあるのですけれども、



図7 濁手葡萄文瓶⁴⁾ (径222×高220) 2019.12. 浜屋百貨店



図8 濁手葡萄文瓶⁵⁾ (径226×高223) 2020.2. 福山天満屋

Key word : 柿右衛門様式 (2019.3.16 高島屋岡山店)

個人的には昔の柿右衛門様式というものが、余白というものが非常にこう、ウチの特徴と言われているのですけれども、昔の柿右衛門様式の絵柄というのは、余白は確かにあるように見えるのですけれども実際には絵が沢山描いてあるんですよ。ですから沢山絵を描いてそれで余白がしっかり感じられるような作品というのを目指してやっておりますので、作品によっては非常に絵が多いように見えたりするものあるのかなと思うのですけれども、あえて少なくしていくというよりは多く描いて余白を生かしたように見えるように作品を作っていく、そういうスタンスで仕事をしております。

Key word : 柿右衛門様式 (2019.12.07 浜屋百貨店)

江戸時代から梅の図案というのはありまして、柿右衛門では代表的なモチーフなんですけれども、昔から幹は青で細い枝は緑、花は赤とか黄色とか、そういう組み合わせで柿右衛門様式というものがありまして、色のバランスは忠実に描いているのですけれども、(中略) 最近はこの幹まで描いて、というか風景画的な。柿右衛門様式というのは風景画が昔から基本なんですけれども、十三代、十四代とかはちょっと拡大した部分の図案が多いですけど、私は幹まで入れたものを、根っこまで描けばということで、最近挑戦しているモチーフです。(中略) 結構梅の図案だけじゃなくて、松とか竹とかいうも

のもこれからずっと展開していきたいと思って仕事をしています。

以上のことから、2017年頃までは「様々な形状の濁手素地(白磁)にシンプルに文様を描く」という作風だったが、2018年頃から「柿右衛門様式の色を意識した修正」が加えられるようになり、2019年には「柿右衛門様式のバランスを意識したモチーフの構成」が行われるようになったということがわかる。図7から図10に文様のパーツが小さくなったことがわかる同じモチーフの作品を示し、図11から図16に風景画を意識して幹まで描かれるようになった作品を示す。

7. 考察

本研究で得られた「十五代の意識の変化」をフローにしたものが図17である。2018年から2019年は、襲名5年目に向けて柿右衛門様式に対する意識が深化し、柿右衛門様式を構成する要素の条件が自然に追加されたものと考えられるが、2017年から2018年の変化は何らかの契機があった可能性が考えられる。なぜならば、十五代がギャラリートークにて「今の所は最初の10年ぐらいで思ったものをどんどん作っていきながら、次の10年ぐらいで、(柿右衛門様式に)少し近づけて行って、また戻るかもしれないけど、30年ぐらい後に今の時代の柿右衛門様式という形で、まとめができれば良いかなと思ってやっています。(2018.11.17 京都高島屋)」と述べており、柿右衛門様式に近づけるのは、まだ



图9 濁手莓文花器⁶⁾ (径 258 × 高 333) 2017.3. 福屋八丁堀本店



图10 濁手莓文壺⁷⁾ (径 305 × 高 443) 2021.2. 福山天満屋



图11 濁手松文皿⁸⁾ (径 310 × 高 46) 2017.10. 遠鉄百貨店



图12 濁手松文皿⁹⁾ (径 275 × 高 40) 2020.10. そごう横浜店



图13 濁手竹文皿¹⁰⁾ (径 310 × 高 48) 2017.1. 丸広川越店



图14 濁手竹文皿¹¹⁾ (径 276 × 高 42) 2020.11. 鶴屋百貨店



图15 濁手梅花文皿¹²⁾ (径 307 × 高 42) 2017.1. 丸広川越店



图16 濁手梅花文皿¹³⁾ (径 275 × 高 40) 2020.10. そごう横浜店

先のことであったはずである。

その要因の一つに顧客の声が考えられる。そもそも工芸品は産業であり、生きていくために、その時々
の需要に応じた製品を生産し利益を出してきたからこそ現代に残っている。つまり、需要が多様化し“ただ
作れば売れる”という時代ではなくなった現代においては、顧客の意見・要望というものの影響力が極めて
強いことが考えられる。実際に十五代が顧客から言われたことについて発言しているコメントをみると、
「(団栗文が) バランス的に赤の部分が少なくなりまして『(先代と比較して) 今までとだいぶ違う色になりましたね』
と言われることが多かったんです(2017.10.28. 遠鉄百貨店)」と述べており、翌年には「赤の色を尊
重したいという風になってきていまして、今は線描きを赤にしまして(2018.5.12. 日本橋タカシマヤ)」と
いうように、顧客の意見が作風に影響を及ぼしている可能性が考えられる。また、顧客から直接何かを言
われることがなくても、作品の売れ行きから人気があるデザインとそうでないものは容易に判明するため、
人気のないデザインは淘汰され、新しいデザインが市場投入される。その中で作風の方向性が定まってきた
ということも考えられる。もう一つは、海外渡航の影響が考えられる。2018年5月にはドレスデン、マイセ
ン、アムステルダムを訪問し、2019年9月にはベルリンを訪問している。その滞在中に美術館や古城にお
いて、かつて海を渡った柿右衛門様式磁器を視察する中で、今でも大切にされ続けていることを実感し、
テレビ局の取材に「私たちには作って輸出した歴史があり、向こうには輸入してきた歴史がある。その歴史
を共有していて、それを今でも共感することができる(2018.5.27 オランダ・ホールンにて)」と述べている。

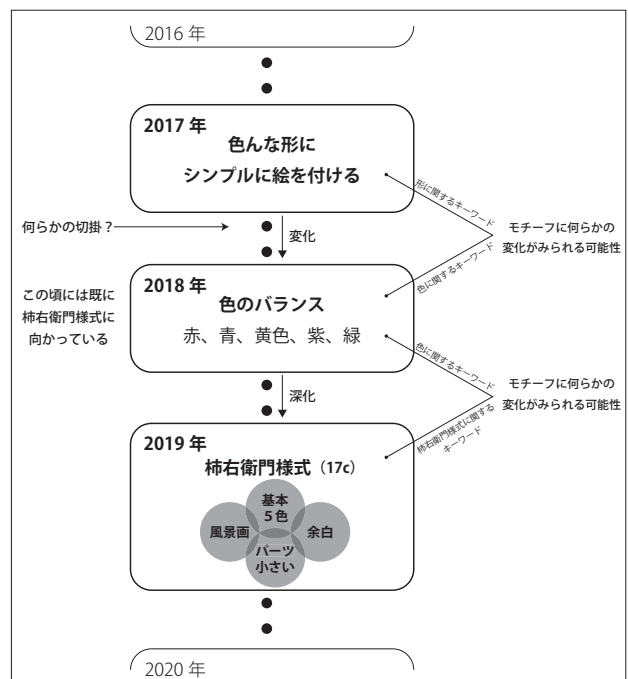


図 17 十五代の作陶に関する意識のフロー

つまり、『世界で愛されている“柿右衛門”こそが原点
であり、目指すべきところ』ということを再認識することによって、海外渡航以降、17世紀に隆盛を極めた
柿右衛門様式への意識が徐々に強くなったということも考えられる。いずれにせよ憶測の域を出ないが、何
らかの契機があったことが考えられる。

2017年から2019年にかけて、「様々な形状の濁手
素地(白磁)にシンプルに文様を描く」というスタイルから「柿右衛門様式のバランスを意識したモチーフ
の構成」へと変化してきているが、2017年の発言に「自
分の作風がまだない」、「考えていても出来ないので、
どんどん描く」、「思いついたものをどんどん作る」、「色
んなものを作りながら考える」というものがある。つ
まり2017年は、まだ作風が定まらない中で思いつく
ものを描きながら『アイデア出し』をしている段階に
あると考えられる。また、2017年と2018年の共起
ネットワークからは「モチーフ」と「描く」の共起関係
が確認できるが、作品全体というよりも十五代のオリ
ジナリティーが求められる「モチーフ」に対する意識
の高さが読み取れる。その一方で、2019年には「風
景」や「パーツの大きさ」などについて言及しており、
共起ネットワークには「余白」という語彙が出現して

いるように、作品全体の「構成」に対する意識が高まっていることが考えられる。この余白について十五代は『余白を描く』と表現することがあるが、「昔の柿右衛門様式の絵柄というのは、余白は確かにあるように見えるんですけども実際には絵が沢山描いてあるんですよ。(2019.3.16 岡山高島屋)」と述べている通り、近年は細かいパーツで構成された文様をバランスよくレイアウトし、狙った余白を作り出そうとしている様子が見受けられる。また、磁器の風景画といえ、水墨画のように呉須の濃淡を使った山水文が思い起こされるが、柿右衛門様式に用いる上絵具の赤を除く4色は、単色を使ってグラデーションのような濃淡表現ができない。そのため、風景の深みや空気感を上絵具のみで表現することは非常に難しい。すなわち、シンプルに描くと文様を構成するパーツが大きくなり制作時間は短縮できるが、一方で単色の面積が大きくなり単調なイメージとなる恐れがある。その反面、風景画を意識すると文様の構成要素は小さくなるが、描き込み量と画面構成の複雑さが増し、相対的に制作時間がかかり生産コストが上がるということが考えられる(図18)。柿右衛門窯において品質を落とさず価格帯を維持していくためには、生産段階での改善が必要になると考えられ、職人の仕事のスピードアップが求められる可能性が考えられる。それによって、例えば絵付けの線の太さや勢いといったものが今後変化していくことも考えられるため、文様や器形だけでなく線や筆運び等についても注意深くみていく必要があると考えられる。

一般的にギャラリートークは、美術館等で解説者が「作品の背景」とそれを作った「作家」、または「制作意図」を解説し、作品の様々な側面を引き出すことに

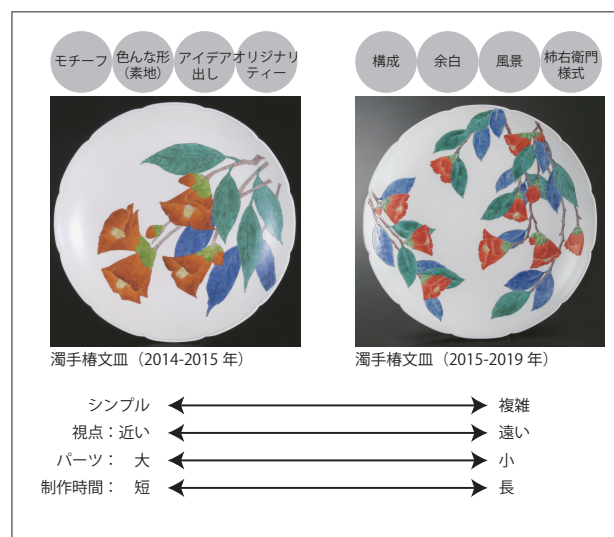


図18 作風の対比イメージ

よって、鑑賞者の理解を深めるために行われる。一方、百貨店で開催される十五代酒井田柿右衛門展は上記に加え、作品を販売し利益を出すということが求められるため、人を集めて作品とその付加価値について広く周知する必要がある。すなわち、ギャラリートークの対象はコアなファンというよりも、広く一般の消費者に向けて行われるため、歴史や原材料、技法、歩留まり、作品の希少性などといった柿右衛門の基礎情報を伝えるということが重要であると考えられる。つまり、階層的クラスター分析により分類した8つのタイトルのうち、「日本における色絵磁器の始まり」、「分業制」、「柿右衛門様式磁器の成立と海外輸出」、「濁手復興と作家活動の始まり」の5つのタイトルは常に取り上げるべき話題であり、ほとんどの会場で話されていることから、本来分析対象としたい十五代のタイトル「現在の制作方法」、「新たな文様」は他の語彙に埋もれやすく、頻出語として抽出するも下位になってしまうことが考えられる。今回は、これまでのギャラリートークを実際に現場で聞き、録音を聞きながら文字に書き起こし、文章のクリーニング作業を繰り返し行ったことから、話の内容をほとんど覚えていたため「柿右衛門様式」というキーワードにすぐ気づくことができた。もしも話を聞いたことがない状態でテキストマイニングをしたなら有益な情報を入手することは困難だったと思われる。今回の結果を受けて、より具

体的で明らかな特徴を得ようとするならば、今回分類したタイトルごとに細かく分析を行っていくことや、定期的に十五代に直接インタビューしていくことが有用と考えられる。十五代のギャラリートークでは、話しておかなければならないタイトルが多い上、大衆に向けたものであるため、なかなか本心を語りづらい状況にあることは容易に想像できる。雑談の中から重要な情報を得ることがあるが、これはリラックスした状態で話ができる環境がなければ難しいと考えられる。また、ギャラリートークは不定期に行われるため、回数や期間にばらつきが生じやすい。今後はインタビュー調査などをギャラリートークの記録に並行して行い、質の良いデータ収集を行っていきたいと考える。

8. おわりに

新型コロナウイルスの感染拡大により、2020年3月以来ギャラリートークは行われておらず、間もなく一年が経過する。今後についても当面中止になると考えられる。これまで目の前で開催される個展とギャラリートークを記録することのみに気を取られていたが、今は自ら情報を取りに行くことが必要になっている。2021年2月20日に福山天満屋にて十五代に「最近制作で意識されていることは何ですか」と尋ねたところ「柿右衛門様式を意識しています」と明快な回答が返ってきた。十五代を代表するモチーフの唐梅、団栗、桜は数ヶ月前から個展に出品されなくなりつつある。それに代わり近年は松竹梅に関係する文様が主となりつつあり、新たなモチーフの薔薇文も2021年2月に発表されたばかりである。刻々と変化し続ける十五代の作風を取りこぼさないためにも、今後はインタビュー調査に注力していきたい。

注

- 1) KH coder とは、テキスト型（文章型）データを統計的に分析するためのフリーソフトウェア。アンケートの自由記述・インタビュー記録・新聞記事など、さまざまな社会調査データを分析するために制作された。「計量テキスト分析」または「テキストマイニング」と呼ばれる方法に対応している。
- 2) 形態素解析ツールには、奈良先端科学技術大学院大学松本研究室で開発された ChaSen（茶筌）を使用した。
- 3) 階層的クラスター分析とは、互いに似た性質を持つものを集めて階層化しクラスターを作る手法。
- 4) 参考文献 [10] の p.45 より転載
- 5) 参考文献 [13] の p.31 より転載
- 6) 参考文献 [8] の p.13 より転載
- 7) 参考文献 [13] の p.11 より転載
- 8) 参考文献 [9] の p.17 より転載
- 9) 参考文献 [11] の p.47 より転載
- 10) 参考文献 [7] の p.47 より転載
- 11) 参考文献 [12] の p.57 より転載
- 12) 参考文献 [7] の p.41 より転載
- 13) 参考文献 [11] の p.49 より転載

参考文献

- [1] 末吉美喜 (2019) 「テキストマイニング入門 Excel と KH Coder でわかるデータ分析」 オーム社.
- [2] 樋口耕一 (2020) 「社会調査のための計量テキスト分析 第2版 内容分析の継承と発展を目指して」 ナカニシヤ出版.
- [3] 岩森美千代 (2020) 「KH Coder を活用した自由記述による授業評価アンケートの解析と客観化の試み」 新潟青陵大学短期大学部研究報告 第50号, pp.95-103.
- [4] 加藤奈奈子 (2020) 「デジャヴ体験における語りの主要素に関する一考察」 奈良女子大学心理臨床研究 第7号 第1部 研究論文, pp.31-38.
- [5] 町田佳世子 (2019) 「質的研究におけるテキストマイニング活用の利点と留意点；活用研究の検討と頻出単語の特徴をもとに」 札幌市立大学研究論文集 13 巻 1号, pp.47-53
- [6] 生田和重 (2015) 「学生が作成したキャリアプランのテキストマイニング」 大学教育研究ジャーナル 第12号, pp.71-81.
- [7] (2017) 「襲名記念 十五代酒井田柿右衛門展」(展覧会図録), 丸広川越店.
- [8] (2017) 「襲名記念 十五代酒井田柿右衛門展」(展覧会図録), 福屋八丁堀本店.
- [9] (2017) 「襲名記念 十五代酒井田柿右衛門展」(展覧会図録), 遠鉄百貨店.
- [10] (2019) 「十五代 酒井田 柿右衛門展」(展覧会図録), 浜屋百貨店.
- [11] (2020) 「十五代酒井田柿右衛門展」(展覧会図録), そごう横浜店.
- [12] (2020) 「十五代酒井田柿右衛門展」(展覧会図録), 鶴屋百貨店.
- [13] (2021) 「十五代 酒井田 柿右衛門展」(展覧会図録), 福山天満屋.